

＜EU本部内‘ELLI’（ベルギー）＞
(European Lifelong Learning Initiative
with the financial support of the EU)

= E L L I European Lifelong Learning Initiative =

EU（ヨーロッパ連合）のビルは現在アスベスト除去工事の最中で入れなかった。

EUは、セクションごとに周辺のビルに事務所を持っており、その中のヨーロッパ生涯学習開発推進機構（E L L I）と、世界生涯学習開発推進機構（W I L L）は、同じビルで仕事をすすめている。今回その両方の理事長を努めるMr. K e i t h D a v i e sにお話を伺った。

E L L Iは1992年に発足。ユネスコと協力し、OECDの支援もしている。この組織はメンバー制で基金に関してスポンサーはない。生涯教育全般の様々なプロジェクトを持っている。

技術革新、人口増、仕事の質の変化、熟練度、世界的市場、そして変化のペース。こうした世界的な変化に教育がついていけない。社会という大きな単位に生涯学習を取り入れようとしており、W I L Lは世界的に、E L L Iはヨーロッパにおいて生涯学習のみに焦点をあてて活動しており、職場や職場外、学校そして社会教育において、人のもつ可能性をいかに見つけ引き出すか（D e v e l o p i n g H u m a n P o t e n t i a l）に責任を持っている。

人の可能性を引き出すこと、そしてその過程を、継続的、刺激的に行なうこと、たとえ学校で失敗しても、別の機会に能力がみつかる場合もある。

すべての人が好きな時に、好きなものを学ぶ機構を作りだそうとしている。

個人として、学習の選択の幅が広がること、それこそがめざすところである。

そのためには、基礎学習（読み書き計算）、学ぶ方法を身につけること、そして個人の資質を高める、という3つの教育の土台の考え方が大切である。

=WILL(World Initiative Lifelong Learning)=

1996年はヨーロッパ生涯学習年として、欧州委員会によって制定されている。

W I L Lは世界の変化に合わせて個々を開発していくことを目的に、まず、生涯学習を理解すること、定義することから運動している。その10の原則は、

- 1 世界中すべての人が、自分の可能性を引き出すために学ぶことができる。
- 2 学習へのアクセス
- 3 学び手の要求に応える。（これが一番大切）
- 4 学習相談、学習支援する場所を作る。
- 5 一方的な教えではなく、どのような学習であろうと支援しなければならない。
- 6 公的であるなしにかかわらず、認定するシステム
- 7 学びたい人にとって障害があってはならない（例）年齢を重ねると公式な学習ルートがなくなる 等
- 8 最新機器等も、専門家のみでなく個人の自己開発に可能性を。
- 9 学習指導者の地位と、学習の好機のとらえ方。
- 10 すべての人に機会を均等に。

ヨーロッパ生涯学習年のしめくくりとして1997年3月に、カナダで世界会議が予定されている。

それには3つのキーワードがある。

- 1 これまでの資本投資は製品化することだったが、これからは人間に投資する企業に対しては、生涯学習を推進することで、税金の控除を考える。
- 2 子どもが人格形成する4歳までの時期にかかわる両親が、責任を持ちきれない状況もあるので、家庭教育に関する効果的な訓練を考える。
- 3 地域で生涯学習を高めていかなければならない。
(公民館はリーダーシップをもつ大ききな責任を自覚してほしい。すばらしい機会を与えているのだから。)

学習コミュニティを作るには、市民の中で戦術をもたなければならない。

- 1 *energising* やる気を出させる環境。刺激的であれ。
- 2 *learning needs* 生涯の中での様々な必要性に応じた社会基盤を整備するために、多くの人の要求を知ること。
- 3 *all departments* 色々な課の協力。
- 4 *counselling services* 学習相談、助言。
- 5 *personal learning plans, mentoring and counseling*
こうしなさいではなく学習計画を引き出してあげる方法を作り出す。
- 6 *links* 色々な年齢層、地域、人々の間をつないでいく。
例) 定年後の人に若い人の相談役になってもらう。地域の中で色々な力を見つけ活

用することが大切。

- 7 e n v i r o n m e n t 環境保全の問題を取り上げる。
- 8 l e a d e r s リーダー役を様々なセクションから見いだす。
- 9 p a r t i c i p a t i o n 家族全体で入りこめるような方法を見つける。
例) 孫が祖母にインターネットを教えるなど。
- 10 c e l e b r a t i n g 学習は楽しく、学ぶことそのものを喜べるようなものにする。

=イギリスでのワークショップから=

11月14、15日にELL Iの支援によりイギリスで生涯学習推進のワークショップが開催されたテーマは A L e a r n i n g C i t y そこで示された具体的戦略は

- 1 すべての人に学習への展望を供給する
- 2 個人の学習もグループの学習も網羅し
- 3 評価の基準を作る
- 4 任意の機関等との連携
- 5 学習を深めることの促進
- 6 その市に住みたいと思うように
- 7 学習の将来性と必要性の展望
- 8 技術的な基盤づくり
- 9 学んだことをその土地の仕事に生かせる環境づくり
- 10 市町村行政にいるものが学ぶ姿勢をもつこと

=Mr. D a v i e sより まとめ=

一人の人でも、生涯の間に様々な変化がある。富める時もあれば貧しい時もあるし、健康であったり、病気をしたり、年をとったり、仕事が変わったり、どんな状況になるかは、若い時だけの学習から将来を考えただけでは、展望できるものではない。

一生涯を通して、知識を得る、習得する、熟練する、価値観を持つことを、信頼と、創造性と楽しさをもって、身につけていけるようにしていこう。

世界のどの国も、どの組織も、価値観の違いに身をおきながら、互いにそれぞれの立場での役割を果たしながら。月に人が行けるようになったように、きっと方法が見つかるはずです。お互いに頑張りましょう。

= E L L I でのお話から =

理事長のデービスさんは、とてもゆっくりと聞き取りやすい英語で、OHPを使いながら話してくださったので、通訳を待つ前に理解することができることも多く、非常に有意義な時間だった。(後で聞いたら約40000円のレクチャーだったそうだ。道理で分かりやすいはず。) ただし、英語でメモしてきたので、帰ってからレポートをまとめるのにかなり苦労したうえ、変な日本語になってしまっているように思うが。

生涯学習の理念をきちんと整理し、具体的な進め方についても話してくださったので、これからの仕事への、一層の助けになった。

21世紀の生涯学習への具体的戦略のレポートをいただいてきたので、これも少しずつ訳していきたいと思っている。

通訳は、Ms. De Bruyne-Takiyuki Keiko